

FUTURE EVENT 01

2019年度美術領域企画展 「スロースターター バイ セルフガイダンス」

2019年10月26日[土] - 11月12日[火]
開館時間: 月-金 12:15 - 18:00、土日 10:00 - 18:00
休館日: なし
会場・主催: 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
企画: 芸術学部美術領域洋画コース

11月9日[土] 14:00 - 15:00 アーティストトーク

本年度本学にて特別客員教授を務める泉太郎は、世界に潜む不条理について、アーティスト的な活動と社会との間に起こる摩擦も含めて映像やドローイング、彫刻や絵画、テキストなど、様々なメディアを通して発表しているアーティストです。今回泉が企画する展覧会では、制作活動を通して社会との摩擦を体験する以前の状態として、芸術大学の学生の存在に着目しています。自らも過去に経験した美術大学生という状況の曖昧さ、無自覚なクリエイティビティと社会的な自意識の間で揺れ動く不安定な時間について、いくつかの作品が展開されます。



芸術と社会をつなぐ場所

「いつ頃から開設の構想があったのですか？
また、開設のきっかけを教えてください」

河内さん
(以下敬称略)

2015年頃からです。もともと前学長の宮田亮平先生と私が仕事でお付き合いさせていただいておりました。そんな中、藝大の卒業で親ある修士の方の木彫作品が気に入って、ダメもとで直接学生さんに作品を売っていただけないかと話しかけました。幸いにも安価で購入することができ、その修士の方にもすごく喜んでいただけたのが嬉しかったのです。

そのことを宮田先生にお話ししたところ、「そうなんだよ。みんな、なかなか食べられなくて困っている。何か作品を販売できる場所を作ってあげられたら」というお話になりました。その時に、誰もがポケットマネーで買える作品が展示されていて、かつ購入できる場所が作れば学生や卒業生の応援にもなるのではないかと考えたのが始まりです。

そんな時にたまたま、小学館内で新規ビジネスプランの募集があり、そこで藝大の学生、教員、卒業生の作品を

展示・販売する場をつくるという企画を打ち出したところそれが通り、この企画を東京藝大さんへ持ち込みました。私もそうですが、一般の人からすると美術が好きといてもなかなか画廊やギャラリーに足を運んで作品を買うのは敷居が高いし値段も心配、作品を見る目にも自信がない。けれど藝大には素晴らしいアーティストやアーティストの卵がたくさんいて、在学中や卒業後にもものすごい売れっ子の作家になる可能性だってありますよね。将来的に値段がグンと上がるかもしれないし、そういう人の若い時の作品と出会えたことは作家として頑張っている彼らを応援することに繋がる。そしてこの場所ですべての作品が売れたという学生もいるし、教員の作品よりも学生の作品の方が売れることだってあるかもしれない。それはアーティストを志す学生さんにとっても良い経験になるのではないかと思います。ある意味、先生も学生もなく純粋にアーティストに出会えて、作品を観ることができるところを作ればと思い、現在に至っています。

東京・上野にある東京藝術大学に2018年10月「藝大アートプラザ」が開設されました。学内に位置しており、企画展を開催し、オリジナルグッズの販売などを行っています。オープンに至った経緯やどのように販売する作品や商品が決められているかなど、藝大と共同運営を行う小学館文化事業局の河内真人さんと、藝大アートプラザ店長の伊藤久美子さんにお話を伺いました。

アート作品を買ってみたい!

I want to buy a work of art.



Gallery BOX

展覧会のご案内

下家 杏樹 「Are you a bird? - 悟り世代 -」

会期: 2019年10月6日[日] - 12月26日[木]
展示場所: 愛知県名古屋市中区栄1丁目2番49号
テラスセナ屋橋2F屋外ショーウィンドウ
※ショーウィンドウのため24時間ご覧いただけます
主催: 学校法人名古屋自由学院
施設運営管理: 名古屋芸術大学地域交流センター
展覧会運営管理: 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
連絡先: gallery-box@nua.ac.jp
一部の展示作品はご購入いただけます



「カイマミ」油彩・キャンパス 2017年

編集後記

去年は40度あった夏、今年はそこまで高い気温はないもののやはり暑い毎日。あいちトリエンナーレ2019、みなさんは行かれましたか？わたしは1DAYパスを買ったのですが、1日で全会場を回らなくてはいけないことに後から気が付き、まだ行けておりません。暑いからまだ行けない！しかしそうこうしているうちに会期が終わってしまうと焦りを感じ始めました(8月下旬現在)。今年はスタートからいろいろと話題性の高かったあいちトリエンナーレ、早く行かねば...

市原明絵(アート&デザインセンター)



最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄大山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)徳重 - 名古屋大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行一本急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄大山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります
自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分

名古屋芸術大学 Art & Design Center

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568]24-0325 FAX [0568]24-2897

Ble Vol.51

発行日 2019年9月6日

編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社



藝大アートプラザのオープニングの際パフォーマンスとして日比野さんが描かれた手書きのロゴマーク



科ごとに仕切られた棚

— 藝大アートプラザが開設される前、学生や教職員、卒業生の作品を販売する場はあったのでしょうか？

河内 もともと同じスペースに「藝大アートプラザ」という名称で、科での作品展示や、一部の作品や商品販売するスペースがありました。現在の企画展は藝大アートプラザのオリジナル企画だったり、各研究室からの持込みで開催していますが、以前はそれぞれの研究室が企画して開催していました。3年程開いていましたが、今回藝大アートプラザを新規オープンする際に、小学館の新しい社屋の設計・建築・内装の担当だった方(この方もたまたま東京藝大OB)をお願いをして、リニューアルしました。

ロゴもともと「藝大アートプラザ」だったときからあった、OBでもある日比野克彦美術学部長がデザインしたものをそのまま使用しており、美術と音楽の二つの学部をイメージしたグリッド線と五線譜がモチーフとなっています。スタッフの着ているエプロンはやはりOBである桂川美帆さんがデザインしたものです。

— 教員、助手、学生などの作品が販売されていますが、どのように集めているのですか？ また、企画展はどなたが考えているのでしょうか？

伊藤さん (以下敬称略) 販作品の展示スペースは大きく二つに分かれています。ホワイトキューブを含む企画展と、20mに及ぶ壁面の常設展です。企画展は様々模索中ではありますが、藝大の先生方からもアイデアをいただきながら、運営スタッフでテーマを設けた展覧会を企画しています。また、学生を対象としたコンペティションや研究室による企画展も開催しています。常設展示では各科からのご推薦の作品であったり、卒業後も活躍しているOBを探したりと、各科と連携を取りながら、作家を増やしているところです。



オリジナルグッズはリーズナブルなお値段

企画展のスペースはさまざまなジャンルの作品が並び、展示方法に毎回苦労するそうです。取材に伺ったときは『小さな「絵画」展』が開催されていました。展覧会タイトルに合わせ3号以下のサイズ制限をつけ作品を集めたそうです。教員、OBの他、現役の学生からの出品もあります。学生にとっては自分の作品に金額をつけることや、作品を販売するために必要な額装やサインの記入など、ギャラリーなどでの展示経験がなくて知る事ができない勉強ができます。

さらに年に一度「藝大アートプラザ大賞」というアートコンペを開催し、受賞・入選作品を『藝大アートプラザ大賞展』という展覧会で展示販売を行っています。学生の制作活動を学外に発信することも、芸術と社会をつなぐ大きな目的のひとつです。

また、来場するお客さんにとっては、一般的にハードルが高いとされるギャラリー・画廊に作品を買いに行くという行動が、この場所に来れば自分の持っているお金の範囲内で、なおかつ自宅などに飾ることの出来るような小さな作品に出会うことができます。作品を手にする楽しさを感じてもらい第一歩として、存在感を示す場所となっています。

ほかにも実は探してみるとギャラリー兼カフェのように、お茶やランチの合間に作品を観ることができる場所もたくさんあります。作品を買う、と肩肘張らずリラックスして出会いを探しに行けば、偶然素敵なものに巡り会えるかもしれませんよ。(名古屋芸術大学サテライトギャラリーの“Gallery BOX”でも作品が購入できます。詳しくは本紙4ページをご覧ください)

藝大アートプラザ

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 東京藝術大学美術学部構内
 電話番号: 050-5525-2102
 営業時間: 10:00 - 18:00
 定休日: 月曜 (月曜日が祝日の場合は営業、翌火曜日に休業)
 ※定休日に関わらず、企画展最終日の翌日と翌々日の2日間は休業
<https://artplaza.geidai.ac.jp/>

— オリジナルグッズはどのように作られているのですか？

伊藤 オリジナルグッズについては運営スタッフが考えています。オリジナルのトートバッグや、各種筆記具、MOLESKINEとコラボした手帖、ピアノ型の鉛筆削り、音楽をイメージしたマグカップや、JRのSuicaペンギンのイラストで有名な藝大のOB、坂崎千春さんが澤和樹学長を描いたメモパッド等々。こんなものがほしいと企画をし、教員にデザインや絵を提供していただきグッズを作ることもあります。一筆箋や扇子などがそうです。

— 音楽学部の作品も販売するのはめずらしいと思いますが、どうして始めようと思ったのですか？

河内 東京藝術大学には美術学部と音楽学部や大学院の映像研究科があるので、みなさんの生み出すものを紹介していきたいと思っています。ただ音楽は作品など具体的なものがいないことから、アートプラザでCDや音楽学部内にある演奏堂を中心としたコンサートチケットの販売を行っています。コンサート帰りのお客さんが次回のチケットを求めてアートプラザを訪れ、併せて展覧会やグッズを見てくれることも多いです。音楽に興味を持って訪れたお客さんが自然と美術の作品にも触れることができる場にしていきたいと思っています。

— 今後の計画を教えてください

河内 さまざまな魅力のある企画展を開催してより幅広いお客さまに来ていただき、美術や音楽にもっと気軽に親しんでほしいです。アートプラザだけの活動に限らず、このプロジェクトがいろいろな形で広く世に広まっていけばいいと思います。

— ありがとうございます！



上野恩賜公園から東京藝術大学旧正門を通り過ぎ、正木門より正面に見える建物が藝大アートプラザ

Report 1

PLAYGROUND展

2019年5月17日[金]ー22日[水]

イラストレーションコース4年生による「PLAYGROUND展」を開催しました。3年次の「遊び」をテーマにしたグループワークによる制作物の展示です。「遊び」の概念を各自咀嚼し、5つのグループごとに制作しました。

「遊び」をゲームと捉えたグループは3つあります。遊び=ゲームと直結する想像力はやや短絡したように思いますが、ゲームとは何か、という根本の追求から始めイラストレーションならではの豊かな表現に繋げる試みとなりました。

「草遊び」を感傷的なノスタルジーに絡めつつ、遊びの根源と捉えて表現しようとしたグループは、最終的に物語形式の表現となりました。表現が完成しておらず未消化感是否めませんが、着眼点は良かったように思います。

車窓を流れる風景に別のイメージを重ねる空想を「遊び」と捉え、これをテーマにしたグループは映像作品を制作しました。やはり技術的に未消化に終わりましたが、「遊び」というテーマを独自に解釈しつつ作品に到達しようとした点は評価できます。

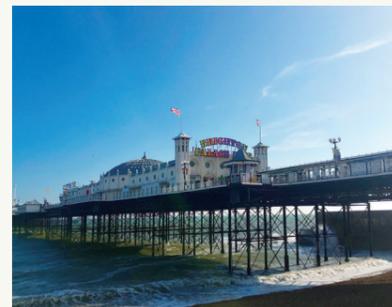
個人制作に集中しがちな環境にあって、共同作業はさまざまな困難もあったようです。また、これまで展示そのものの機会が少なく、展示に関する基本的な訓練を兼ねた課題でもありました。全体的に表現の稚拙さ是否めませんでした。卒業制作を控え、展示に関する心構えが育ってきていることを期待しています。



丸岡 慎一 デザイン領域 イラストレーションコース講師

Report 2

ブライトン大学、卒業制作展の印象



ブライトンに到着した日は息も白くなるほど肌寒く、夏の華やかさで有名なブライトンビーチに押し寄せる波の色もどんよりと鈍い色でしたが、徐々に天候は良くなり卒業制作展のレセプションの当日、ブライトンは初夏の強い日差しに包まれることとなります。

滞在2日目のミッションは美術学部長のAmanda Bright先生、副学部長のDuncan Bullen先生、菊井政右衛門後援会長、田村友一郎先生とともに各コースからノミネートされた11名1組の作品を学生にインタビューをしながら朝から一気に見ていくことでした。その中で驚かされたのは彼らのプレゼンテーションの豊かさです。展示とともにコンセプトブックを用意し、自信をもって自分の作品について語っていて、制作プロセスの中で何度も作品について思考してきたことがうかがえました。

このプレゼンテーションを通じ私達は名古屋芸大賞として7つの賞を選びましたが、テキスタイルとイラストレーション、写真コースからの作品は、サイズは大きくないものの、強固なコンセプトと的確なプロセスを踏んでいて際立つものがありました。グランプリに選んだ Al CoffeyとLiz Crane、Tom Nicholson (Fine Art Critical Practice) の“LOST TREASURE”は英国の(過去の)歴史を考察し、批判でなく批評性を持った2つのコントラストのあるインスタレーションでした。一つは暗室に作られた大英博物館を想起させるガラスの空っぽの展示台、もう一つはイギリス連邦の旗を吹き抜ける螺旋階段に大胆にはためかせたもの。どちらも歴史の重いテーマを扱いながらスケールとユーモアと美しさを含んだ秀逸な展示でした。

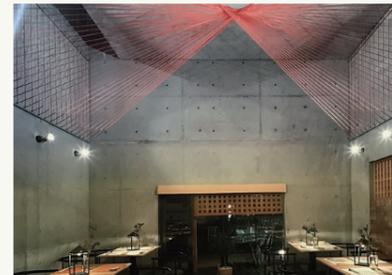
レセプション当日は多くの美術関係者が招待されギャラリストたちがそれぞれの視点に立った賞をつけている様子が見られ、これは翌日の授賞式で発表されることとなります。この数日のブライトン大学での滞在で何より感銘したのはレセプションでも授賞式においても、学生たちが招待した家族や故郷の友人たちに誇らしく作品の説明する姿とそれを聞く人々の満足そうな表情です。この展示空間には学生生活の中で思考を重ね存分に作品を作り上げた者とそれを理解しサポートする者との清々しい出会いがあり、若いクリエイターたちの想像を超える作品との出会いを楽しむ鑑賞者の笑顔が多く見られました。このような数日の滞在中、最も大きな刺激を受けたのは、卒業する若者たちに「あなたの未来をサポートする」という意思を卒業制作展の中で明快に伝えるブライトン大学の力強いその姿勢です。

片山 浩 デザイン領域 イラストレーション・ヴィジュアルデザインコース准教授

芸術一話

ART WORDS FROM THE ART WORLD

26



この部屋は現在はギャラリースペースだが、昔はレストランスペースだった。織部亭は様々な展覧会を開催しているギャラリーカフェ。ランチの種類も豊富です。織部亭 愛知県一宮市島崎1丁目11-19(TEL 0586-76-1993)

「子どもの頃からずっと同じことしてるよネ」先日幼なじみからふいに言われた。何かを生み出す創造性、他者とのコミュニケーションの有様。そして何よりのワクワク・ドキドキ感。多くを経験し学んだ時代。綿々と続く現在の仕事の中においても常に意識したい大切なこと。来春迎える「織部亭」35周年も、そんな中での通過点かな。

第26話 原風景につながる今

夏のある時期、一斉に乱舞する無数のヒメボタル。はっきりと記憶に刻まれている幼少期の原風景。生まれ育った集落は当時竹やぶの中にまばらに家々が点在するといったジブリの環境。やがて迫る高度成長期に入るや、区画整理のため竹やぶは根こそぎ消滅していく。そして縦断する形で整備された名岐バイパス(国道22号線)により、この辺りの景色は一変した。

テレビが普及する前の60年代半ば。遊びは必然的に自然のもたらす恩恵、素材により完結する。澄んだ水辺も魅力的だったが、一番に興じたこと、それは竹やぶでの「隠れ家」づくり。程よい4本の竹を用いて壁面と屋根を笹で覆う。内側には簡易な棚を設け、拾ってきたガラス瓶、そこに一輪の花を差す。床は落葉し積もった笹でフカフカのじゅうたん。次の日から連日放課後に友人を誘ってそこへ案内する。それぞれのリアクションもさることながら、閉じられた空間で友と向き合うことの新鮮さ、そして少なからぬ後ろめたさ。